

No. 1315

宇宙博 PART 2

昨年7月に開幕し、去る1月に閉幕した宇宙科学博覧会は、551万人の入場者を記録、大盛況でしたが、この度、国際児童年協賛のRART2として再び開幕しました。宇宙博は、青少年・児童に対して未来にはいかに多くの夢と希望が待っているかを提示しこの人類の未来にとって不可欠な宇宙科学技術の平和利用を、次代へと継承していこうとするものです。今回は、国際連合児童権利宣言の精神に則り、宇宙科学技術のもたらす利益などを、我が国だけでなく、世界中の子供のためにと、願って開かれたものです。展示物の中にはアポロ16号が採集した月の石、たたみ500畳の大画面映画など目をみはるものばかり、春休みということもあって、会場はチビっ子のファンでいっぱい、順調なPART2のスタートです。

白鳩のいる社^{やしろ}

鳩は平和のシンボル。しかし都会に住む鳩は今やその数がふえて、公害のひとつになっている。東京九段の靖国神社。この境内には5年ほど前から純白の鳩が住むようになり、ここを訪れる人々の目を楽しませている。この鳩は昭和48年発足した靖国神社「白鳩の会」が白い鳩で戦争の神社というイメージを変えたいと飼い始めたもの。鳩を飼うのにかかる費用は全国にいる8,000人の会員からの会費でまかなわれている。鳩舎はコンクリート3階建て。一階は事務所になっているが、2階3階が鳩の住みか。現在ここには約700羽の鳩がいる。この鳩の面倒をおもに見ているのは長沼さん。まだ鳩に接して一年足らずだが鳩が好きでしかたのない様子。専属の獣医さんも一週間に一度巡回にくる。虫くだし、かぜの予防など健康管理にも充分配慮がなされまさにここの鳩はいたれりつくせり。境内で餌を与える時の合図は音楽。モーツァルトの「おもちゃの交響曲」が流れると鳩は一斉に舞い上がる。条件反射を利用したものだが、鳩の音楽による餌づけは世界でも例のないことだという。靖国神社の白い鳩。いつまでも平和を祈って飛び続けてほしいものだ